

【仕事・ボランティアに関する意識と実態調査 2024】

50代～70代の就業率の割合は48.1%。

就業者層の方が非就業者層に比べて世帯年収が100万円以上も高いことが明らかに。

仕事をする理由は、お金を稼ぐことよりも社会とのつながりを理由に挙げている割合が高く、ボランティア活動実施率は50.9%と社会活動に意欲的。

女性誌販売部数 No.1 (※1) 雑誌「ハルメク」などのマーケティングやリサーチのコンサルティングを通じて、50代以上のインサイトを日々探求する、ハルメク 生きかた上手研究所は、50～79歳のハルトモの女性 501名を対象に「仕事・ボランティアに関する調査」を Web アンケートにて実施しました。

(※1) 日本 ABC 協会発行社レポート(2023年7月～12月)

【 調査サマリ 】

■50～70代の就業率は全体で48.1%。就業者層の方が非就業者層に比べて世帯年収が高い一方で、幸福度は低い。

⇒50代は74.7%と高く、60代は54.9%、70代は15.9%と年代が上がるにつれて就業率は低くなっている。

⇒50代～70代全体の平均世帯年収は546万円。就業有無別に比較すると、就業者の平均世帯年収は608万円、非就業者は491万円と、就業者の方が非就業者に比べて100万円以上高い。

⇒幸福度を就業有無別に比較すると、就業者は非就業者に比べて現在の幸福度が低い。

■現在の仕事の不満点は「給与額、収入」「福利厚生」「仕事環境・設備」など、
金銭面の待遇や仕事環境への不満が多く挙げられている。

⇒50代は特に「給与額、収入」の不満が高く、「仕事量」「仕事内容」に対する不満も60代に比べて約10ポイント高い。

■過去仕事をした経験は98.0%と、社会経験がある人がほとんどを占める。

⇒現在就業もしくは過去就業経験のある人のうち、転職経験がある割合は76.6%。転職経験無しも含めた母数で平均約2.7回転職をしている。

⇒これまで就業したことのない人も含め、新しい仕事への就業意向は28.3%。

■現在就業者の「死ぬまで」働いていたい人の割合は9.5%。

⇒65歳を超えても働きたいと思っている人の割合は86.7%。

■仕事をする理由として、お金を稼ぐことよりも社会とのつながりを理由に挙げている割合が高い。

「仕事を通じた学び」「生活リズムを整える」ことを挙げている人も

⇒仕事をする理由として上位に挙げたのは、「社会との関わりを得たいから」「人とのコミュニケーションを得たいから」「仕事を通じて自分が役立っていると実感できるから」。

⇒「老後の資金を確保したいから」は9位、「日々の生活費を得たいから」は11位と、お金を稼ぐことよりも社会とのつながりを理由に挙げている割合が高い。

⇒そのほか特徴的なものとして5位に「仕事を通じて学びが得られるから」、6位に「生活リズム、生活スケジュールを整えることができるから」が挙げられている。

■ボランティア活動実施率は50.9%。具体的には「募金・収集」次いで「子育て支援」、「シニア支援」。

⇒現在ボランティア非実施者も36.6%が今後ボランティア活動を実施したいと回答。

⇒ボランティア活動を行っている、もしくは行いたい理由は「社会に対して貢献したいと思うため」「社会との関わりを得たいから」「活動を通じて自分が役立っていると実感できるから」がTOP3。

【調査背景】

ハルメク 生きかた上手研究所は、シニアのインサイトについて調査・分析を行っています。少子高齢化による労働力不足が日本の課題となっている中、シニア世代の働き方が注目されています。「働き方改革」の中でも「65歳以上の就業促進」はテーマの一つです。現在シニア女性はどのような働き方をしているのか、そして、今後どのような働き方をしたいのか、この点を探るべく、ハルメク 生きかた上手研究所では「50~70代女性の仕事・ボランティアに関する調査」を実施いたしました。

※調査主体の「ハルメク 生きかた上手研究所」所長への取材、コメント提供も可能です。

【調査概要】

調査方法：WEB アンケート

調査対象・対象者数：50~79歳の全国のハルトモ（ハルメクのモニター組織）の女性・501名

調査実施日：2024年3月29日（金）~4月1日（月）

調査主体：株式会社ハルメク・エイジマーケティング ハルメク 生きかた上手研究所

※ 調査結果のパーセンテージは、小数点以下第2位を四捨五入したため、総数と内訳の合計が一致しないことがあります。

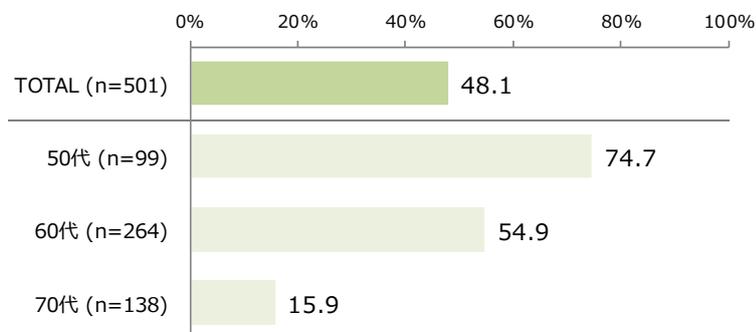
※ 本リリース内容を掲載いただく際は、出典「ハルメク 生きかた上手研究所調べ」と明記をお願いいたします。

50~70代の就業率は全体で48.1%。

就業者層の方が非就業者層に比べて世帯年収が高い一方で、幸福度は低い。

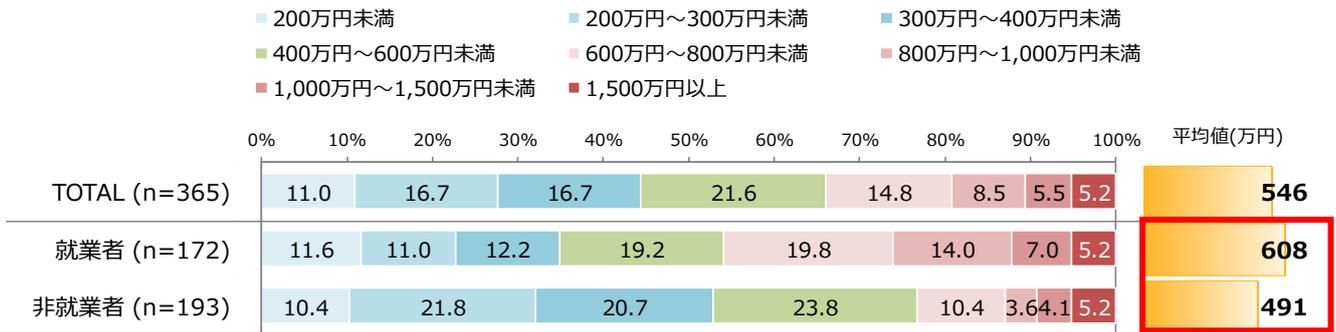
- 50代は74.7%と高く、60代は54.9%、70代は15.9%と年代が上がるにつれて就業率は低くなっている。
- 50代~70代全体の平均世帯年収は546万円。就業有無別に比較すると、就業者の平均世帯年収は608万円、非就業者は491万円と、就業者の方が非就業者に比べて100万円以上高い。
- 幸福度を就業有無別に比較すると、就業者は非就業者に比べて現在の幸福度が低い。

■ 「就業率」(全体、年代別)
50~79歳の女性(単一回答に基づき算出): 501名



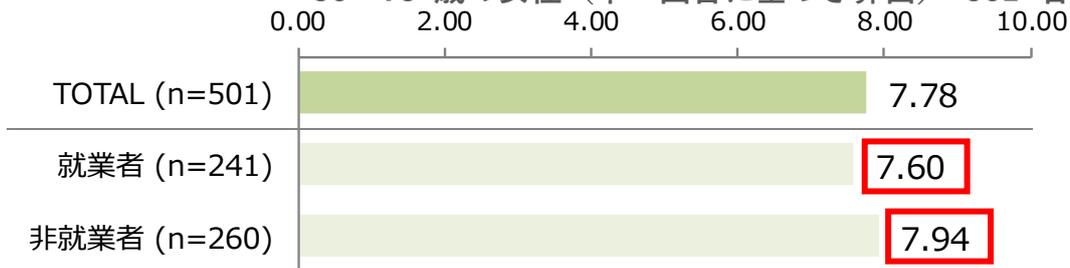
注：職業を選択肢で提示。「経営者・会社役員」「会社員（正社員）・公務員（正職員）」「専門・自由業（フリーランス）・自営業」「派遣社員」「契約社員」「パート・アルバイト」「嘱託」「その他の有職」の回答を「就業者」、
「学生」「無職（年金受給者）」「無職（年金受給者以外）」の回答を「非就業者」として、就業者割合を算出

■ 「世帯年収」 (全体、就業有無別)
「わからない・答えたくない」を除く 50～79 歳の女性 (単一回答) : 365 名



注：回答があった選択肢に対し、「200万円未満」は「100万円」、「200万円～300万円未満」は「250万円」、
「300万円～400万円未満」は「350万円」、「400万円～600万円未満」は「500万円」、
「600万円～800万円未満」は「700万円」、「800万円～1,000万円未満」は「900万円」、
「1,000万円～1,500万円未満」は「1,250万円」、「1,500万円以上」は「1,500万円」とみなし平均値を算出

■ 「幸福度」 (全体、就業有無別)
50～79 歳の女性 (単一回答に基づき算出) : 501 名

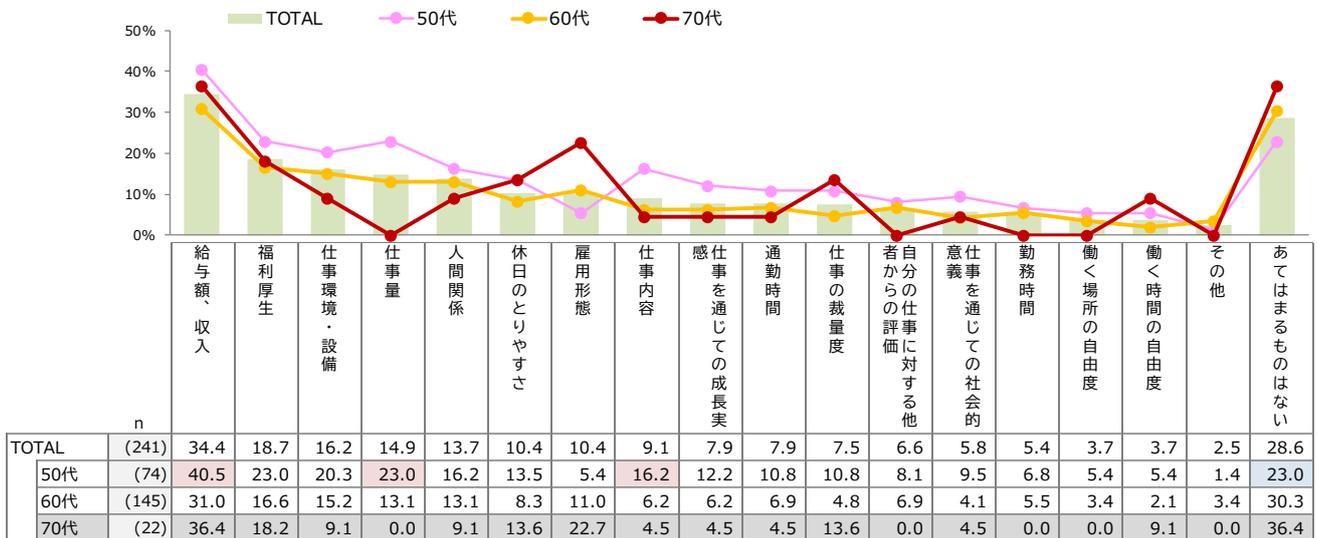


注：「とても不幸」を「0点」、「とても幸せ」を「10点」とした 11 段階で現在の幸福度を聴取り、平均値を算出

**現在の仕事の不満点は「給与額、収入」「福利厚生」「仕事環境・設備」など、
金銭面の待遇や仕事環境への不満が多く挙がっている。**

- 50代は特に「給与額、収入」の不満が高く、「仕事量」「仕事内容」に対する不満も60代に比べて約10ポイント高い。

■ 「現在の仕事の不満点」(全体、年代別)
現在就業している50～79歳の女性(複数回答): 241名

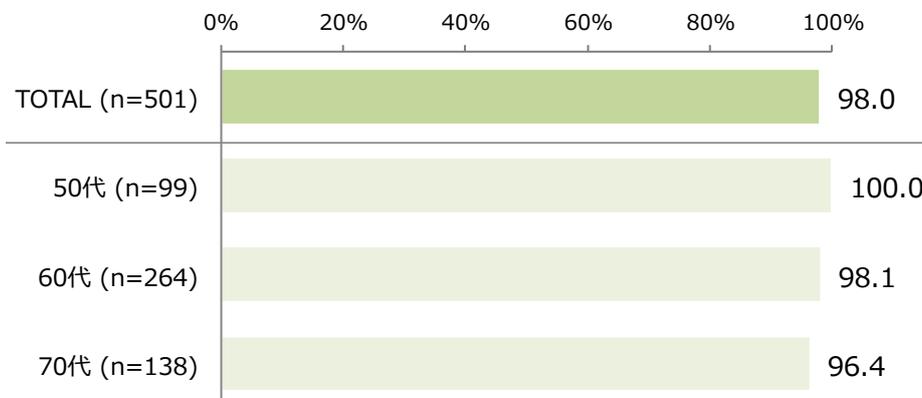


注1: 70代はサンプルサイズが30未満のため参考値

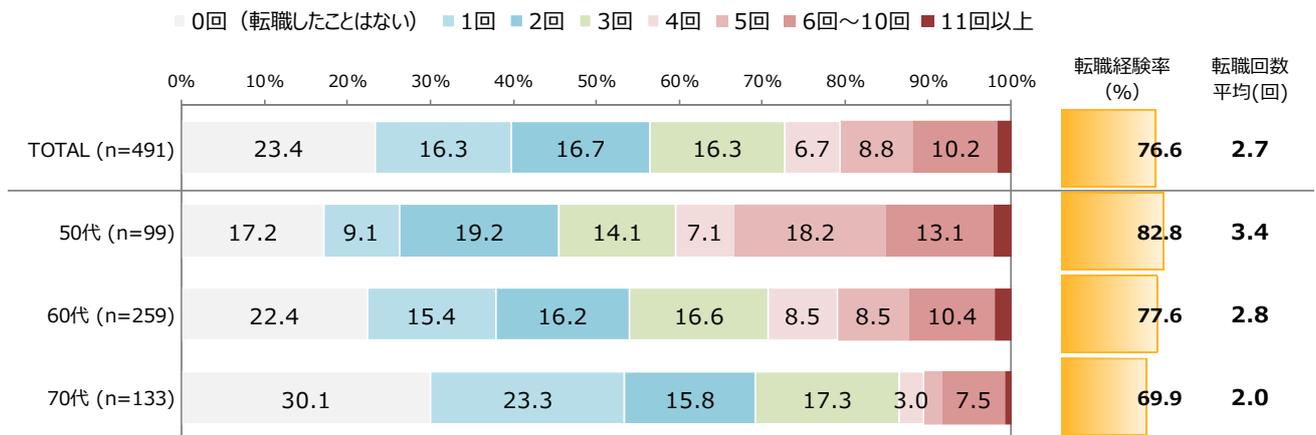
過去仕事をした経験は98.0%と、社会経験がある人がほとんどを占める。

- 現在就業もしくは過去就業経験のある人のうち、転職経験がある割合は76.6%。転職経験無しも含めた母数で平均約2.7回転職をしている。
- これまで就業したことのない人も含め、新しい仕事への就業意向は28.3%。

■ 「過去仕事経験」(全体、年代別)
50～79歳の女性(単一回答): 501名

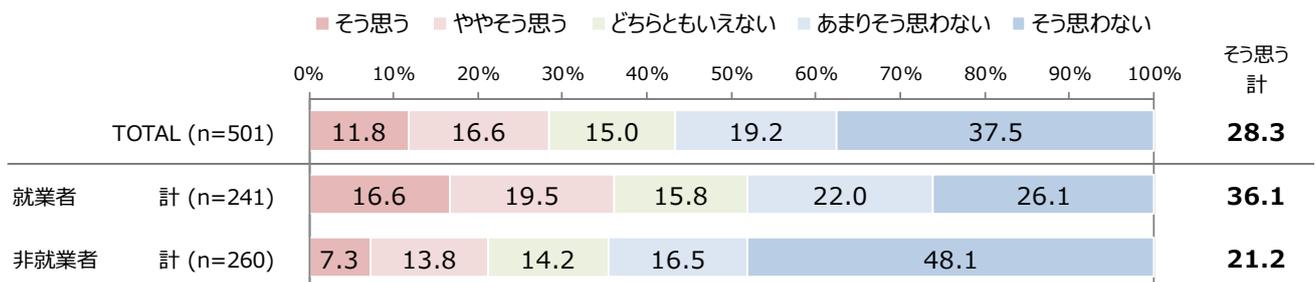


■ 「転職回数」(全体、年代別)
 現在就業もしくは過去就業経験がある 50~79 歳の女性 (単一回答) : 491 名



注1: ※回答があった選択肢に対し、「0回 (転職したことはない)」は「0回」、「1回」は「1回」、「2回」は「2回」、「3回」は「3回」、「4回」は「4回」、「5回」は「5回」、「6回~10回」は「8回」、「11回以上」は「11回」とみなし平均値を算出
 注2: 3%未満の値は非表示

■ 「新しい仕事への就業意向」(全体、就業有無別)
 50~79 歳の女性 (単一回答) : 501 名



■自身の仕事感に影響を与えた出来事、それを踏まえて持った価値観（自由記述抜粋）
現在就業、または過去就業経験がある 50～79 歳の女性（単一回答）：491 名

仕事でつらかったこと、苦労した出来事

結婚が決まると仕事内容が補助的に。男女の不平等感が増しました。（東京都 64 歳）

高校を卒業して就職した企業で、仕事が段々面白くなり、上司に色々質問したら「女の子はニコニコ笑っていれば良いんだよ」と言われてがっかりした。性別に関係なく仕事がしたいと強く思った。（北海道 66 歳）

当時の上司に病気で休養したいと言ったら、女の子の替えはいくらでもいるから、すぐ辞めていいと言われた。（大阪府 60 歳）

上のポジションを勝ち取るために、必死で仕事をしてきました。最後は、一緒に仕事をしていた仕事仲間の裏切りに合い、心底傷付き、会社を辞めました。会社組織を信用しすぎるのは良くないと、自分自身で個人事業をスタートしました。（東京都 63 歳）

乗り越えた経験から仕事で得た喜び

いろいろな先輩のおかげで仕事・人として成長させてもらったと思っている。様々な人がいるところ、それが会社なんだと当時は認識していた。パワハラ、モラハラなど多くのハラスメントのシャワーを浴びていたけど毎日が楽しかった。（神奈川県 64 歳）

同じ仕事（たとえ雑用）をしても、これはあの人の仕事だ。と認めていただけ嬉しかった。お茶を淹れたときに、当時の部署の最高位の方が、小さいお嬢さん（新任社員）の淹れたお茶は美味しい。直ぐに分かると言ってくださった。目に見えないものを大切に社会貢献を心掛け続けようと思った。（東京都 70 歳）

毎日コツコツ英語の勉強をしていたら、外国人との交渉に参加させてもらえた。努力すれば必ず報われる。（千葉県 68 歳）

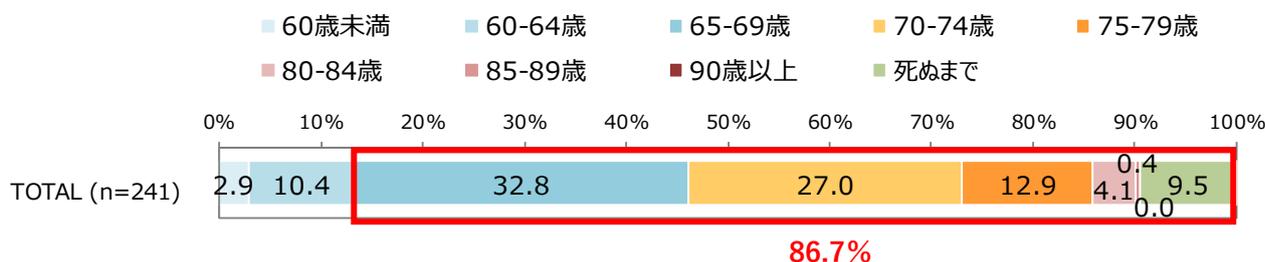
仕事をして行く中では、常に「個人」として扱われ、「誰々の娘さん」「誰々の奥さん」という事が無い。社会に出るようになってからは、「自分」という人間そのものの本質を見られるようになった。これは自分にとっては良い影響と思う。仕事をする事によって、社会との繋がりや立場を確立する事が出来る。子育てや親の介護などがあっても、短時間でも良いから仕事をするべきなんだ、と確信した。（埼玉県 54 歳）

ベンチャー企業の立ち上げに参加し、ゼロからホームページを作る担当になった。それまでホームページの経験はなく、何もわからなかったが、いろんな人に教えてもらい、助けてもらいながらやり通したことで自信もついた。8年後には月間 1000 万 PV を達成した。「できない」と言わないこと、チャレンジすることの大切さを学んだ。この経験は、新しい仕事、分野にも飛び込んでいける勇気と柔軟性を与えてくれた。（東京都 65 歳）

現在就業者の「死ぬまで」働いていたい人の割合は 9.5%。

- 65 歳を超えても働きたいと思っている人の割合は 86.7%。

■「今後いつまで働いていたいか」（全体）
現在就業している 50～79 歳の女性（単一回答）：241 名

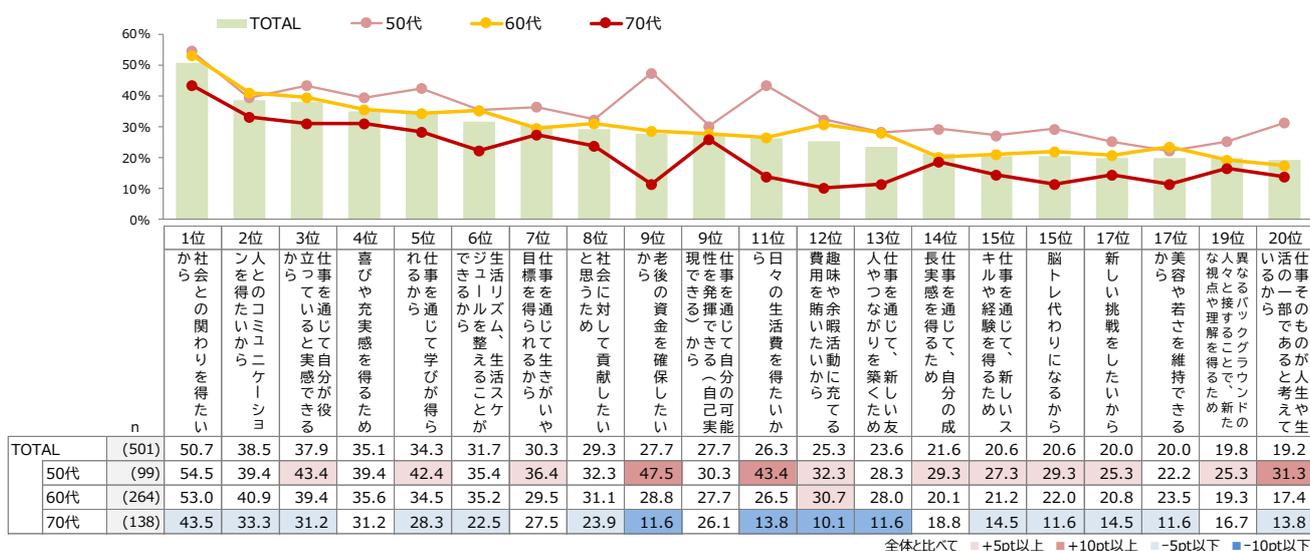


仕事をする理由として、お金を稼ぐことよりも社会とのつながりを理由に挙げている割合が高い。

「仕事を通じた学び」「生活リズムを整える」ことを挙げている人も

- ・ 仕事をする理由として上位に挙げたのは、「社会との関わりを得たいから」「人とのコミュニケーションを得たいから」「仕事を通じて自分が役立っていると実感できるから」。
- ・ 「老後の資金を確保したいから」は9位、「日々の生活費を得たいから」は11位と、お金を稼ぐことよりも社会とのつながりを理由に挙げている割合が高い。
- ・ そのほか特徴的なものとして5位に「仕事を通じて学びが得られるから」、6位に「生活リズム、生活スケジュールを整えることができるから」が挙げられている。

■ 「仕事をする理由」(全体、年代別)
50～79歳の女性(複数回答): 501名
※TOTAL上位20位まで掲載

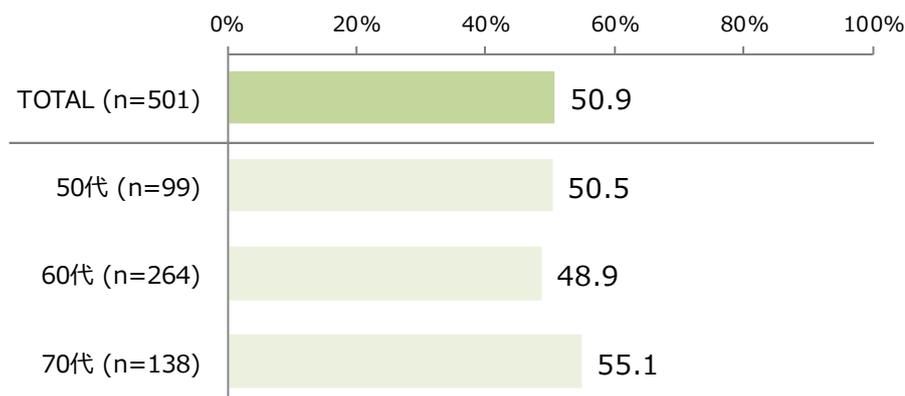


ボランティア活動実施率は50.9%。

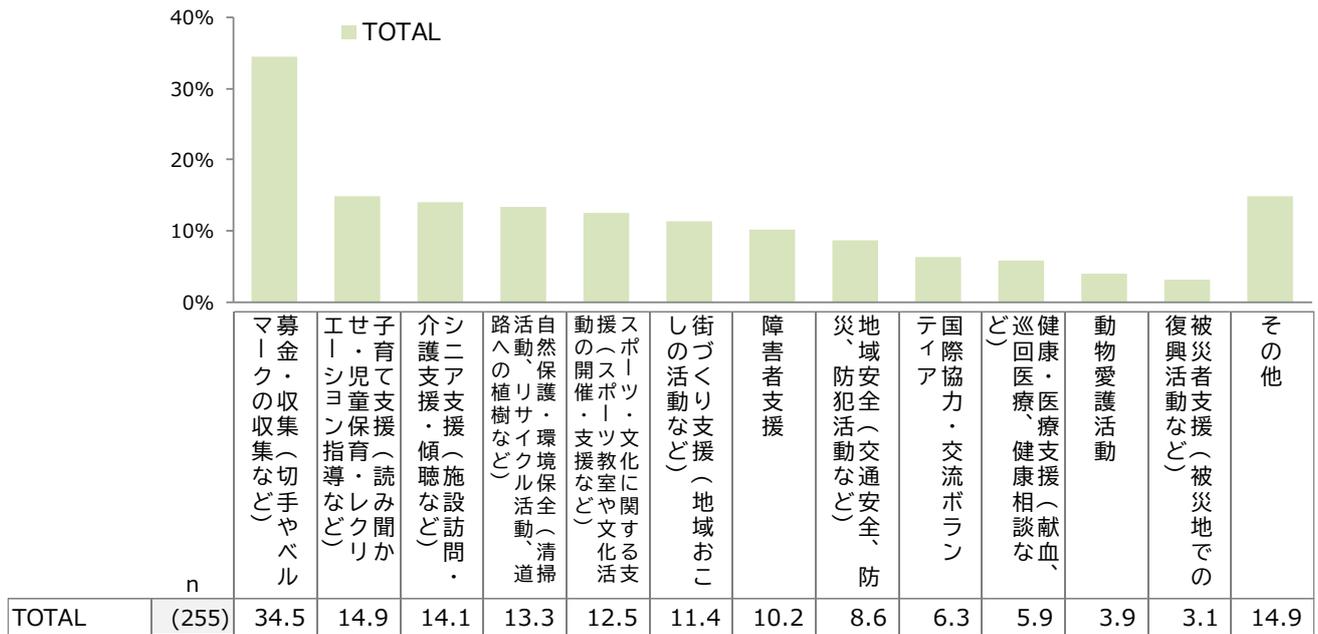
具体的には「募金・収集」次いで「子育て支援」、「シニア支援」。

- ・ 現在ボランティア非実施者も36.6%が今後ボランティア活動を実施したいと回答。
- ・ ボランティア活動を行っている、もしくは行いたい理由は「社会に対して貢献したいと思うため」「社会との関わりを得たいから」「活動を通じて自分が役立っていると実感できるから」がTOP3。

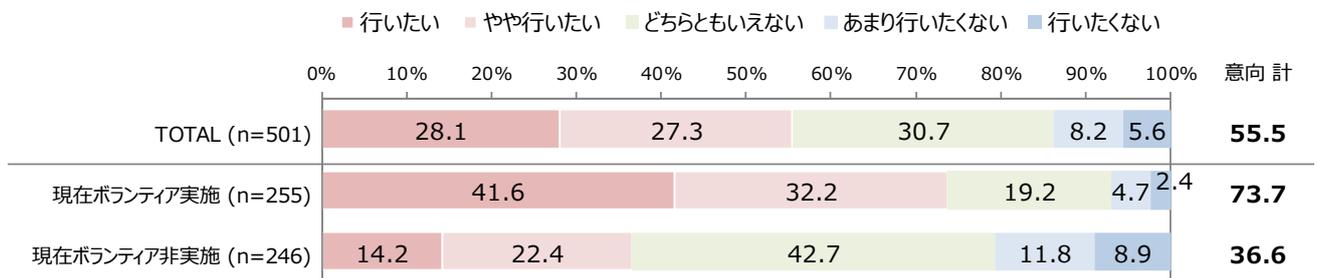
■ 「現在ボランティア実施率」(全体、年代別)
50～79歳の女性(単一回答): 501名



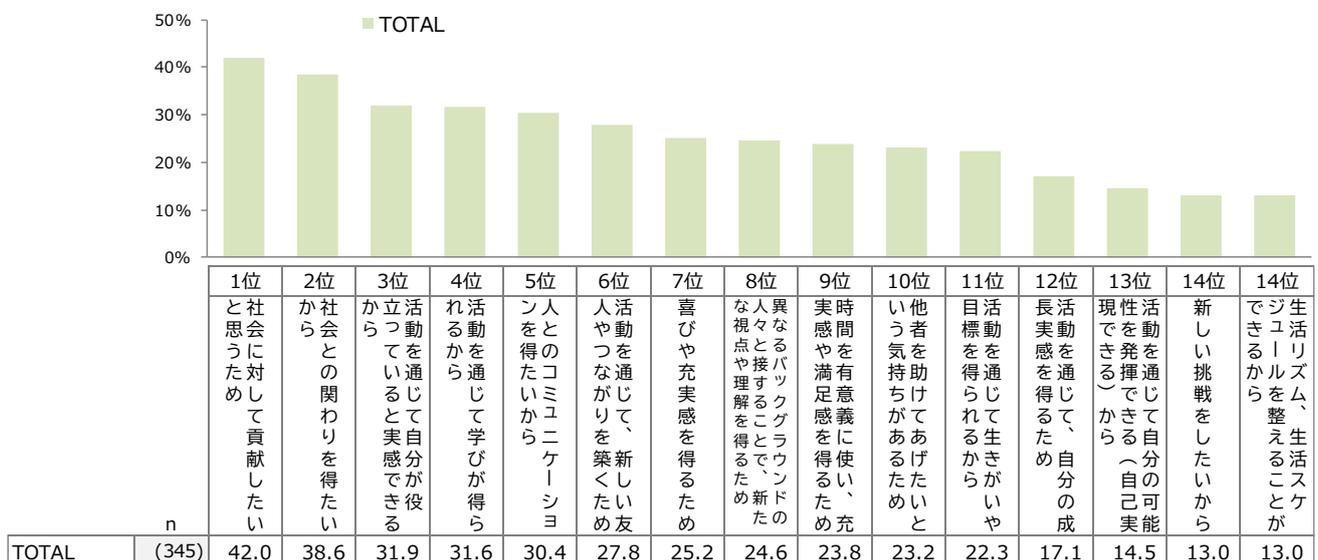
■ 「ボランティア実施内容」(全体)
 ボランティアを実施している 50~79 歳の女性 (複数回答): 255 名



■ 「今後ボランティア実施意向」(全体、現在ボランティア実施有無別)
 50~79 歳の女性 (単一回答): 501 名



■ 「ボランティア活動を行っている、もしくは行いたい理由」(全体)
 現在ボランティア実施、または実施意向のある 50~79 歳の女性 (複数回答): 345 名
 ※TOTAL 上位 15 位まで掲載



■ ボランティア活動を行っている、もしくは行いたい理由 その他（自由記述抜粋）

現在ボランティア実施、または実施意向のある 50～79 歳の女性：345 名

今までの人生はたくさんの人に支えられ、助けられ生きてきたのに、感謝すら伝えられずにやり過ぎしてしまった自分に今、後悔しています。それをボランティア活動を通して、社会という形に恩返しができるのではと思い、ボランティアを行うきっかけとなりました。（千葉県 56 歳）

情報を伝えること、継承することは大切なことだと…やっと、気持ちにゆとりができた今だからできることだと思います。（福岡県 66 歳）

今まで仕事を持ちながら子育てもできた。1 人ではダメで、周りに助けて貰った。感謝してお返ししたい。（大阪府 70 歳）

健康のため（京都府 69 歳）

【専門家の見解】

ハルメク 生きかた上手研究所 所長 梅津 順江（うめづ ゆきえ）

2016年3月から現職。主に年間約900人のシニアを対象にインタビューや取材、ワークショップを実施



50歳以上女性のキャリアは想像以上。人生後半も社会活動に意欲的

『自分は、きっと想像以上だ。』（某飲料メーカー）、『あなたのキャリアは、想像以上だ。』（人材紹介サービス）という名コピーがありますが、『50歳以上女性のキャリアは想像以上だ』というのが今回の調査から感じたこと。予想よりも50～70代女性の社会経験と意欲は高い結果でした。驚いた数字を並べてみます。過去仕事経験率98.0%、現在の就業率48.1%、現在もしくは過去就業したことのある人の転職経験76.6%、転職平均回数2.7回。新しい仕事への意向度28.3%、ボランティア活動実施率50.9%、ボランティア活動意向度55.5%。人生を振り返り、仕事やボランティアに積極的な態度を示しています。

しかし自由記述には、苦労話や経験が綴られました。「結婚が決まると仕事内容が補助的に」「女の子はニコニコ笑っていれば良いと上司に言われがっかり」「ポジション争いが激しくなって仲間の裏切りに心底傷つき、辞めた」「病気で休養したいと言ったら、女の子の替えはいくらでもいるから、すぐ辞めていいと言われた」など。一方、遅しうしなやかに乗り越えた経験や仕事で得た喜びも複数みられます。「会社組織を信用しすぎるのは良くないと、自分で個人事業をスタート」「先輩方のおかげで人として成長させてもらった。多くのハラスメントのシャワーを浴びていたけど毎日が楽しかった」「最高位の方が、小さいお嬢さんの淹れたお茶は美味しい。直ぐに分かると言ってくださった。雑用でも認めていただけて嬉しかった」「毎日コツコツ英語の勉強をしていたら、外国人との交渉に参加させてもらえた。努力は必ず報われる」など。酸いも甘いも含めた豊かな人間関係や社会経験をしてきた世代だからこそ、新たな人や社会とのつながりや学びにも前向きなのかもしれません。

現在ボランティア非実施者であっても36.6%がボランティア活動に意向を示しています。ボランティア実施の動機は仕事をする理由と同じで、「社会貢献」の他、「社会との関わりを得たい」「自分が役立っていると実感できる」からが上位。「他者を助けてあげたい」という他人行儀な理由は10位でした。年を重ねるとより一層、「自分の喜び」と「人・社会の喜び」が重なってくるということなのかもしれません。

■女性誌販売部数 No.1！ 50代からの生きかた・暮らしかた応援雑誌「ハルメク」

50代からの女性が前向きに明るく生きるための価値ある情報をお届けしています。健康、料理、おしゃれ、お金、著名人のインタビューなど、幅広い情報が満載です。また、雑誌「ハルメク」の定期購読者には、本誌とともに提供するカタログと、オンラインでの通信販売を行っています。販売している商材は、ファッション・インナー・コスメ・美容・健康など多岐にわたり、独自のシンクタンクである「ハルメク 生きかた上手研究所」を通じて利用者の声を徹底的に調査、反映した商品開発で、多くの女性から支持を得ています。

■ハルメク 生きかた上手研究所のシニアリサーチデータは、「[ハルメク シニアマーケティング LAB](#)」で掲載しています。

「ハルメク シニアマーケティング LAB」は、ハルメク世代（シニア）を顧客とする企業にとって有益な情報をお届けしている情報サイトです。ハルメクグループが提供する定期購読誌や通販等を通じて得たマーケティングデータや記事、シンクタンク「ハルメク 生きかた上手研究所」の調査レポートなど豊富な情報が満載です。